

はせさんず

2021 新春号 NO.92

ニュース

2021年1月15日(金)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 棧敷 洋子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元気かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！

NPOの非営利活動にご寄附ご支援をお願いします

コロナ禍を越えて支援を続けるた

新年おめでとうございます。昨年からのコロナ禍のなか、はせさんずでは、会員制たすけあい・移送活動を始め、介護保険事業(訪問・居宅介護支援・通所)、障害福祉サービス(居宅介護・同行援護・移動支援)など、休まず続けています。

職員一同、三密を避け、マスク着用、手洗い・消毒を徹



今、本当は何が必要かを考える
 NPO法人あかしろきいろ理事長 相澤

あかしろきいろ発達支援るーむは、2歳から18歳までの発達障害の子どもたちを対象とした療育施設で、現在約60名の利用者が在籍しています。

休校への対応

昨年3月に学校が一斉休校となった際も、感染拡大に由来以上に気を配りながら変わらず支援を継続。9割以上の利用者は通常どおり通所し、元気に運動やソーシャルスキルトレーニングに参加しました。4月に緊急事態宣言が発出された後は、小集団活動を2週間休みつつ、通所を希望する子どもや家庭での状況が困難な子どもには個別指導の療育のみ休まず提供し、4月下旬から小集団活動も徐々に

底しながら、緊張のが、高齢者や障害のその家族などの状況で、必要なサービスに提供していくことになっています。

これからも高齢者ある人たちに常に客尊厳を大切にしながらもりや気持ちのふれじられるサービスを

再開しました。一度人数を減らして分敷ど、スケジュール変対応を工夫して行い厚生労働省や東京通達では遠隔での支援も一部認められることで、感染症への対応は利用者にできることはないかした。さまざまな利用者へのヒアリングも施設では通所によると電話相談への対応質を落とすことなく継続することができました。

オンライン支援も学校へ通えなくともたちの一番のスト運動したり遊んだりないことです。当然もたちは汗びっしょくらい運動し、職員トラクションを楽から配布される宿題で笑顔で帰っている護者が感じている

訪問介護サービスを継続させるために

大田区訪問介護事業者連絡会 相談役
株式会社カラス 代表取締役 田尻久美子



新年おめでとうございます。

昨年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、社会全体が不安や緊張に包まれたなかでの新しい年の幕開けとなりました。

介護に従事する方々が高度の閉塞感や緊張感にさらされながらも強い使命感をもってサービスを継続されていることに心から敬意を表します。私たちが取り組む訪問介護は、その方の生活に真に密着し、生活を根底から支えている重要なサービスです。ある意味ではその方にとっての生命線を担っているといっても過言ではありません。コロナ禍における訪問介護事業継続に必要なと考えるいくつかの視点について私見を述べさせていただきます。

サービス継続のための対策

訪問介護は社会的責務の大きい事業であり、事業者の都合で利用者の生活に影響を及ぼすことを何よりも避けなければなりません。

一方、多くの訪問介護事業者は複数の事業所を持たない

単一の事業所です。単一の事業者でできる感染症対策には限界があります。だからこそ、自事業所で感染者が発生するなど有事の際に、衛生用品が分け合える、代替サービスの打診や協力をお願いできる、そんな事業所同士の連携の関係性をつくっておくことが大切だと感じます。また、事業継続のためのBCP(事業継続計画)を策定し、危機的な状況に陥った時の多方面の対応をあらかじめ講じておく必要があります。

積極的な情報収集

新型コロナウイルス感染症に関する状況は、日々刻々と変化しています。適切な対応を行うために正確な情報をしっかりとキャッチし、その情報をもとに判断をしていくことが重要だと感じています。根拠のないうわさや偏った情報に惑わされて右往左往しないためにも、信頼できる機関からの情報を自ら収集する必要があります。

いまだからこそ、地域のつながりを

我々の業務は、利用者のQOL(生活の質)に大きく関与しています。人生の集大成の時期を過ごす高齢者の方々が、感染予防対策のために閉じこもり状態となり、コミュニティとのつながりを失ったり、家族や大切な人にも会えずにい

る現在の状況を憂うとともに、「新型コロナウイルス対策」がひとつの免罪符になっているのではないかと感じざるを得ません。

新しい地域のあり方を

これからしばらくは新型コロナウイルス感染症とともにある生活が続くことを考えると、新たな形での地域のつながりを作り出すことが急務と感じます。保険者においては単に介護保険制度を運用するだけではなく、新しい「地域の在り方」をデザインしていただきたいと思います。そして我々介護従事者も、地域の高齢者の方々が地域社会から切り離されず、なじみの関係を持てるように力を尽くすべきだと考えています。

第24回講演会のお知らせ

「医師が考える新型コロナウイルスとのつきあい方」

- ・日時：3月6日(土) 13時30分～15時30分
- ・場所：Luz大森 4階 入新井集会室
- ・講師：鈴木内科医院 院長 鈴木 央さん

新型コロナウイルス感染状況によっては中止になることがあります